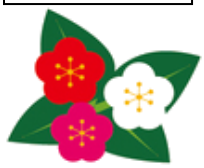
教室掲示用

# ランチタイム No.30

令和４年１月３１日
下松市立中学校給食センター



## ～節分のお話～

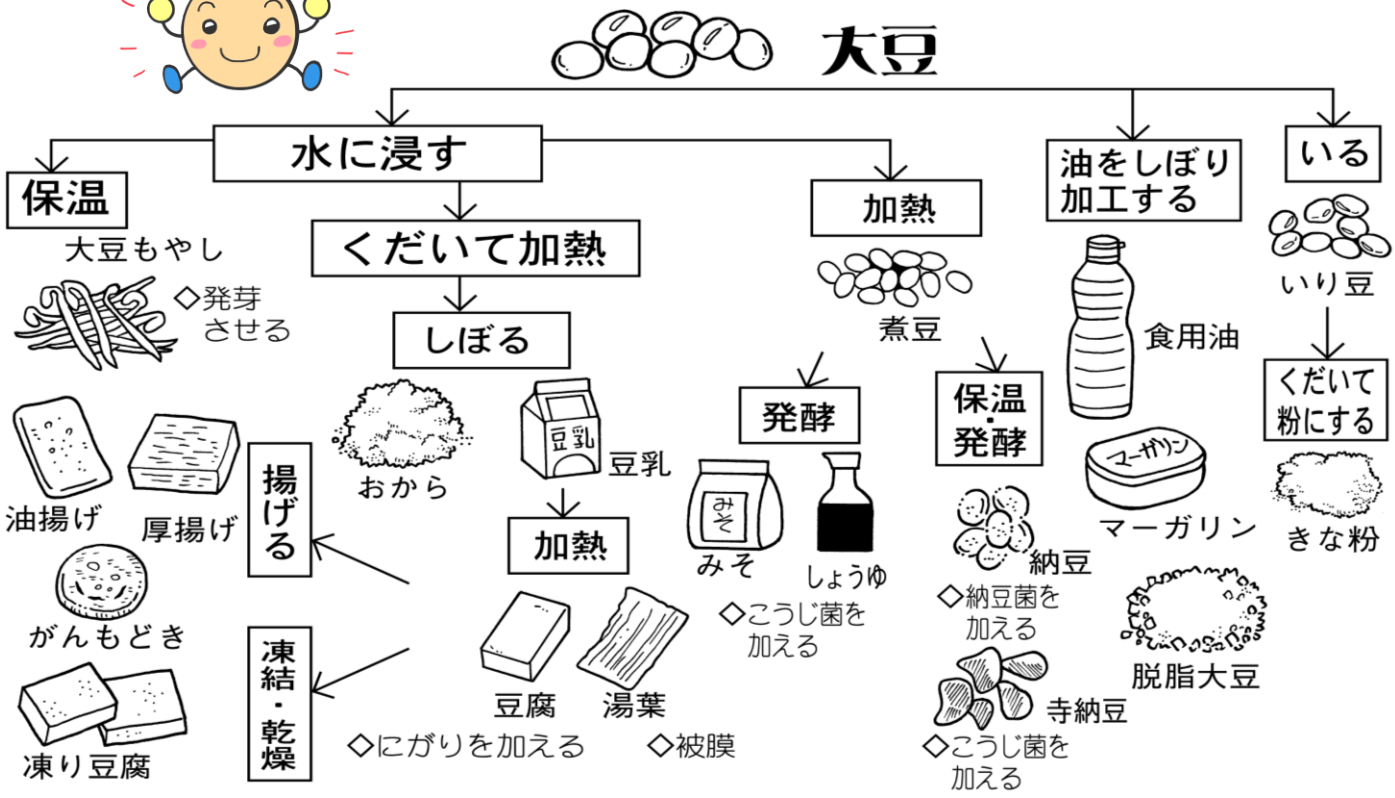
節分は、「季節の分かれ目」を意味しており、もともとは「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日をさしていましたが、今では、「立春」の前日だけを節分と呼んでいます。冬から春へと季節が移り変わる「立春」は、お正月と同じように１年が始まる重要な日と考えられており、その前日の節分は大みそかのような位置付けで、特に大切にされてきました。

### 豆まき

節分といえば、「豆まき」です。豆まきに使うのは、炒った大豆です。大豆は、お米と同じように大切な作物であり、特別な力があると考えられてきました。「鬼は外、福は内」と唱えながら家の中や出入り口にまいて、鬼＝邪気をはらい、自分の年の数（または年の数＋１粒）の豆を食べ、１年の幸福を祈ります。

### ヤイカガシ

ヒイラギの枝に、焼いたイワシの頭を刺したもので、「ヒイラギイワシ」ともいいます。ヒイラギの葉のトゲトゲや、イワシのにおいを鬼が嫌うとされ、家の戸口や門に飾って鬼を追い払います。豆がら（大豆を取った後の枝）を添えることもあります。

## 大豆の大変身（だいずのだいへんしん）

大豆は、弥生時代から栽培されていた作物で、さまざまな食品や調味料に利用され、私たちの食生活に欠かすことのできない食べ物です。植物ですが、体をつくるもとになるたんぱく質を豊富に含み、「畑の肉」とも呼ばれます。